資料 1−1（R7.3.10）

大阪PCB廃棄物処理事業の操業状況について

1．操業状況のレビュー

大阪ＰＣＢ処理事業所は、平成 18 年 10 月に操業を開始し、近畿２府４県で保管されていたトランス類、コンデンサ類及び廃ＰＣＢ等の処理を行ってきました。

以下、その間のレビューを報告します。

（１）処理実績（平成 18 年 10 月～令和６年３月末）

当初策定されたＰＣＢ廃棄物処理基本計画では、事業完了の予定時期が平成 28 年３月となっていましたが、処理開始後に明らかとなった課題への対応等により期限内の処理が困難になったことから、平成 26 年のＰＣＢ廃棄物処理基本計画の変更により、ＪＥＳＣＯ全事業所の長所を生かし、処理能力を相互に活用すること、安定器等汚染物の処理については、北九州事業所及び北海道事業所を活用すること、計画的処理完了期限と事業終了準備期間を設けて、最長でも平成 36 年度末までに処理を完了する等が決まりました。

大阪ＰＣＢ処理事業所としては、計画的処理完了期限として平成 34 年３月まで処理が延長されました。この間、処理にあたって特に留意が必要な多くの処理困難物、処理手間物の受入れも行うなど、当初の想定になかった事象が発生しました。

このため、計画的処理完了期限を経過した後も、地元自治体等のご理解、ご協力を得て、事業終了準備期間を活用して処理を継続していましたが、登録されたＰＣＢ廃棄物について令和６年１月 19 日までに受入れが完了し、同年２月 23 日をもって全ての処理が完了しました。

操業開始から処理完了までに大阪ＰＣＢ処理事業所で処理した高濃度ＰＣＢ廃棄物は、**（表−1）**のとおりです。

表−１　大阪ＰＣＢ処理事業所の処理実績

種　　類	大阪事業エリア	エリア間移動処理			合計
		北海道事業エリア	豊田事業エリア	北九州事業エリア	
トランス類（台）	2,748	—	30	1	2,779
コンデンサ類（台）	84,426	70	123	338	84,957
廃ＰＣＢ等（本）	3,068	—	—	51	3,119

※エリア間移動により豊田ＰＣＢ処理事業所で処理した PP コンデンサー（4,987 台）は除く。

（２）処理手間物・困難物の処理について

高所や地下階に設置されてそのままの形状では運び出せない大型トランス類、また、そのままの形状では処理施設に入らない超大型トランス、低引火点成分を含む廃ＰＣＢ油や硫黄濃度が高い廃ＰＣＢ油など、元の形状、性状では受け入れることができず、大阪ＰＣＢ処理事業所の搬入口の拡張工事を実施したり、保管場所において移動式蒸留装置を用いた蒸留・分離を実施する等、通常のＰＣＢ廃棄物の処理に比べて、準備にも処理にも時間を要する処理手間物・処理困難物について、本社に設置された処理困難物対策チームの支援を得て、事業監視部会で報告、ご意見をいただきながら処理を行ってきました。

処理を行った主な処理手間物・困難物は**（表−2）**のとおりです。

表－2　処理手間物･困難物の処理実績

	種　　類	数量等	処理年
①	コンクリート固化されたトランス	9,840 kg	平成 28 年
②	高所、地下に設置された大型のトランス等	12 台	平成 26～31 年
③	水没、コア炭化のトランス	３台	平成 30～31 年
④	ＰＣＮ含有油（SK-2）入りトランス（シリコン整流器）	９台	平成 29～31 年
⑤	コンクリート固化されたコンデンサ	89 台	平成 28～令和２年
⑥	成分不明、夾雑物混入廃ＰＣＢ油	25,251kg	平成 28～31 年
⑦	低引火点成分混入廃ＰＣＢ油	1,318kg	令和２年
⑧	硫黄濃度が高い廃ＰＣＢ油	67 本	令和３～４年
⑨	硫黄濃度が高い廃ＰＣＢ油 シリコンオイル含有廃ＰＣＢ油	681 本 （粘度調整後）	平成 31～令和５年

（３）現状及び今後の処理施設の操業について

営業物の処理が終了した後は施設の解体撤去が事業の中心となり、解体撤去の作業及び処理等に伴って発生した廃棄物は、ＰＣＢの付着状況等の調査を行ったうえで、解体撤去物、解体廃棄物として適切に外部委託処理する、または自所で無害化処理しています。

これに伴う処理施設の稼働状況や廃棄物の処理状況については**資料１－３**で説明しますが、真空加熱分離装置（ＶＴＲ）や液処理設備は当面の間稼働させるため、各種モニタリング調査や作業環境測定等については従前と同様に継続して実施することとしています。

また、処理事業を安全かつ確実に完遂するために必要と考えているヒヤリハットキガカリ（ＨＨＫ）活動や緊急時対応訓練、安全教育についても同様に継続して実施します。

2. 大阪PCB処理事業所から発生した運転廃棄物処理の実績

（１）有価物の払出状況

これまでの営業物の処理に伴って発生した金属など有価物として払出しをした実績を**(表－3)**に示します。

表－3　有価物の払出状況

有価物払出実績	種　類	払出量（トン）
内　　訳	劣化溶媒　*1	4，325
	鉄	3，333
	銅	419
	その他*2	432
合　計		**8，509**

＊１：劣化溶媒（鉱油など）、＊２ステンレス等

（２）廃棄物の払出状況

営業物の処理及び施設の運転に伴って発生した産業廃棄物（非ＰＣＢ廃棄物に限る。）の払出実績を**(表－4)**に示します。

表－4　産業廃棄物の払出状況

廃棄物払出実績	種　類	払出量（ﾄﾝ）
内　　訳	塩酸	8,232
	ビフェニル	2,096
	ﾄﾘｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ	593
	碍子・ｶﾞﾗｽくず	211
	活性炭汚泥	377
	その他＊	1,839
合　計		**13,348**

＊ 木酢液、廃アルカリ、廃プラ等

また、施設の運転及び定期検査に伴って発生したポリプロピレン製シート・保護具等の運転廃棄物（ＰＣＢ廃棄物）については、低濃度物は平成 24 年に無害化処理認定施設を活用した処理ができるよう体制整備がなされ、その後には、事業所間を移動して処理を行った結果、営業物の処理に伴って生じた運転廃棄物は、令和６年７月末には処理が完了しました。

平成 24 年度以降の無害化処理認定施設や自所処理、他事業所での処理実績は**(表－5)**のとおりです。

表－5　低濃度･高濃度PCB運転廃棄物の払出状況　（H25.3～R6.7）

処理の方法	払出量（ﾄﾝ）	払出本数(本)
無害化処理認定施設	1,232	11,068
自所処理	710	4,960
他事業所処理	333	3,265
合　計	**2,275**	**19,293**

3. 各種モニタリング調査結果等

（1） 排出源モニタリング

モニタリング計画等に基づき実施した排水、騒音・振動及び排気の調査結果を報告します。

1） 排水（汚水及び雨水）

令和６年６月（汚水）及び 10 月（雨水）に実施した外部分析機関による排水中のＰＣＢ及びダイオキシン類濃度の測定結果は、**（表－６）**のとおり、全 11 地点とも自主管理目標値未満でした。

表－６　排水（汚水・雨水）測定結果

棟名	検体	測定点	測定項目	単位	R6.6・10 2024	参考 R5.6・7 2023	R4.6・7 2022	R3.6・7 2021	R2.6・7 2020	R1.6・7 2019	維持管理値	自主管理目標値
西棟	敷地境界汚水	①	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.0021	0.11	0.093	0.0037	0.0016	0.33	10	5
		②	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.45	0.49	1.0	0.058	0.39	0.037	10	5
		③	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.0019	0.16	0.11	0.0022	0.0018	0.049	10	5
		④	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.0016	0.076	0.059	0.059	0.0036	0.0050	10	5
	敷地境界雨水	①	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.81	0.19	0.27	0.20	0.26	0.20	10	5
		②	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.27	0.15	0.18	0.25	1.5	0.34	10	5
		③	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.090	2.0	0.97	0.11	0.25	0.30	10	5
東棟	敷地境界汚水	①	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.00053	0.0020	0.070	0.0031	0.066	0.055	10	5
	敷地境界雨水	①	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.13	0.070	0.30	0.073	0.33	0.54	10	5
		②	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.11	0.075	0.13	0.059	0.24	0.18	10	5
		③	ＰＣＢ	mg/L	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	検出せず	0.003	0.0005
			ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.16	0.15	0.17	0.21	0.21	0.29	10	5

注）排水中のPCBの定量下限値は、0.0005mg/L

2）騒音・振動

令和６年６月に実施した外部分析機関による騒音及び振動レベルは、敷地境界４地点（東、西、南、北）でいずれの時間帯も**(表－7)**のとおり維持管理値未満でした。

表－7　騒音・振動測定結果

棟名	測定項目（単位）		測定箇所／区分		R6.6 2024	参考 R5.6 2023	参考 R4.6 2022	参考 R3.6 2021	維持管理値
東西棟	騒音	騒音レベル（dB）	東	朝	49	53	48	48	60
				昼間	53	54	51	53	65
				夕	52	53	49	50	60
				夜間	49	51	49	49	55
			西	朝	56	57	54	56	60
				昼間	61	62	59	60	65
				夕	59	57	59	58	60
				夜間	54	54	54	55	55
			南	朝	54	57	54	55	60
				昼間	61	60	57	58	65
				夕	59	56	55	55	60
				夜間	54	54	54	54	55
			北	朝	56	56	53	53	60
				昼間	60	59	58	59	65
				夕	57	57	56	55	60
				夜間	52	53	53	53	55
	振動	振動レベル（dB）	東	昼間	35	35	32	31	65
				夜間	29	32	29	29	60
			西	昼間	30	32	27	27	65
				夜間	<25	27	<25	<25	60
			南	昼間	37	38	33	32	65
				夜間	28	31	26	26	60
			北	昼間	36	36	33	32	65
				夜間	31	26	26	25	60

3) 排気（排気口、ボイラー）

令和６年度２回目（令和６年 11 月）の測定結果は（**表－８－１、２**）のとおりです。ＰＣＢ、ダイオキシン類、塩化水素、ベンゼン濃度等の測定を行い、全測定箇所において自主管理目標値未満でした。

また、ボイラー排気中の窒素酸化物、ばいじんについても自主管理目標値未満でした。西棟ボイラーは令和６年８月に廃止しました。

表－８－１　西棟　排気

棟名		測定箇所		測定項目	単位	結果	参考						
						R6/11	R6.5 2024	R5.11 2023	R5.5 2023	R4.11 2022	R4.5 2022	維持管理値	自主管理目標値
西棟	①	排気口 西No.1-1 (P0403)	TCB分離装置	PCB	mg/m^{3}N	0.0000033	0.0000082	0.0000038	0.0000045	0.0000088	0.000019	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000086	0.000032	0.000010	0.00019	0.00017	0.000047	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	－	0.35
	②	排気口 西No.1-2 (P0401)	洗浄装置	PCB	mg/m^{3}N	0.0000079	0.0000091	0.0000098	0.000014	0.000012	0.000012	0.1	0.01
			蒸留装置･ﾀﾝｸﾍﾞﾝﾄ	ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000034	0.0000010	0.0000037	0.000010	0.0000069	0.0000047	－	0.1
	③	排気口 西No.2 (P0402)	真空加熱分離装置	PCB	mg/m^{3}N	0.0000049	0.000017	0.0000026	0.0000030	0.000015	0.000016	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000057	0.000017	0.0000015	0.00041	0.00021	0.049	－	0.1
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	－	0.35
				アセトアルデヒド	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－	0.1
				トルエン	ppm	－	<0.1	－	<0.1	－	<0.1	－	0.1
				臭気排出強度	－	－	<6	－	7.0×10	－	1.9×10^2	25×10^6	－
	④	排気口 西No.3 (P0201)	ﾚﾍﾞﾙ3換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.0000043	0.0000024	0.0000027	0.0000016	0.0000075	0.000011	0.1	0.01
			解体室	ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000044	0.00000087	0.0000011	0.0000029	0.000010	0.000024	－	0.1
	⑤	排気口 西No.4 (P0202)	ﾚﾍﾞﾙ3換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.0000041	0.0000045	0.0000032	0.0000039	0.0000046	0.0000072	0.1	0.01
			漏洩品解体準備室	ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000035	0.0000025	0.0000025	0.0000062	0.0000037	0.0037	－	0.1
	⑥	排気口 西No.6-1 (P0203)	ﾚﾍﾞﾙ2換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.0000057	0.0000089	0.000040	0.0000078	0.0000092	0.000017	0.1	0.01
			局所排気、除染処理室	ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000038	0.0000088	0.0000093	0.00011	0.0000096	0.0000095	－	0.1
	⑦	排気口 西No.6-2 (P0205)	ﾚﾍﾞﾙ2換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.0000041	0.0000026	0.0000024	0.0000041	0.0000015	0.0000010	0.1	0.01
			抜油室	ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000027	0.0000011	0.0000031	0.000013	0.0000059	0.0011	－	0.1
	⑧	排気口 西No.7 (P0204)	ﾚﾍﾞﾙ1換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.0000046	0.0000064	0.0000032	0.0000025	0.0000051	0.0000085	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.0000075	0.0000047	0.0000051	0.0000037	0.0000073	0.0000047	－	0.1
	－	ボイラー排気口 西No.5		窒素酸化物	ppm		38	35	37	45	37	150	60
				ばいじん	g/m^{3}N		<0.002	<0.003	<0.002	<0.002	<0.002	0.05	Trace

表－８－２　東棟　排気

棟名		測定箇所		測定項目	単位	結果	参考						
						R6.11	R6.7 2024	R5.11 2023	R5.7(再測定) 2023	R5.5 2023	R4.11 2022	維持管理値	自主管理目標値
東棟	①	排気口 東No.1-1 (P0451)	高濃度ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽ	PCB	mg/m^{3}N	0.000034	0.000027	0.00017	－	0.00012	0.000038	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00076	0.00065	0.00068	－	0.0037	0.0019	－	0.1
	②	排気口 東No.1-2 (P0452)	低濃度ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽ	PCB	mg/m^{3}N	0.000016	0.000016	0.00019	－	0.000025	0.0000098	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000022	0.000036	0.000030	－	0.00052	0.00020	－	0.1
	③	排気口 東No.1-3 (P0453)	脱気槽ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽA	PCB	mg/m^{3}N	0.000031	0.000011	0.000029	－	0.000014	0.000014	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00060	0.00045	0.00055	－	0.00026	0.00015	－	0.1
	④	排気口 東No.1-4 (P0454)	脱気槽ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽB	PCB	mg/m^{3}N	0.000028	0.000022	0.00017	－	0.000050	0.000020	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00062	0.000051	0.0010	－	0.00076	0.000035	－	0.1
	⑤	排気口 東No.2-1 (P0457)	H_2ｶﾞｽﾍﾞﾝﾄA	PCB	mg/m^{3}N	0.000017	0.0000045	0.0000076	－	0.000013	0.000014	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000041	0.0000049	0.000011	0.000021	0.00078	0.000032	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	⑥	排気口 東No.2-2 (P0458)	H_2ｶﾞｽﾍﾞﾝﾄB	PCB	mg/m^{3}N	0.0000090	0.0000086	0.000016	－	0.0000089	0.000085	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000023	0.0000076	0.000027	－	0.00013	0.00016	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	⑦	排気口 東No.2-3 (P0456)	塩酸ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽA	PCB	mg/m^{3}N	0.0000094	0.000010	0.0000047	－	0.000015	0.000011	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000011	0.000011	0.0000029	－	0.000020	0.0000057	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	⑧	排気口 東No.2-4 (P0460)	塩酸ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽB	PCB	mg/m^{3}N	0.000013	0.0000078	0.000017	0.0000087	0.00034	0.0000099	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00044	0.0000060	0.000042	0.000012	0.00020	0.000016	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	⑨	排気口 東No.4-1 (P0253)	ﾚﾍﾞﾙ2換排気 局所排気	PCB	mg/m^{3}N	0.000091	0.00012	0.00036	－	0.000068	0.000075	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00059	0.000098	0.0012	－	0.00064	0.000043	－	0.1
	⑩	排気口 東No.4-2 (P0251)	ﾚﾍﾞﾙ2換排気 充填室、廃活性炭、ﾀｰﾙ室他	PCB	mg/m^{3}N	0.000015	0.0000092	0.0000053	－	0.000015	0.000028	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000010	0.000012	0.0000030	－	0.00026	0.00077	－	0.1
	⑪	排気口 東No.5 (P0252)	ﾚﾍﾞﾙ1換排気	PCB	mg/m^{3}N	0.000034	0.000026	0.000026	－	0.00010	0.000034	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.000032	0.000022	0.000017	－	0.00058	0.000087	－	0.1
	⑫	排気口 東No.6-1 (P0455)	蒸留設備ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽA	PCB	mg/m^{3}N	0.0000083	0.000021	0.000022	－	0.0000075	0.000010	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00044	0.000012	0.000037	－	0.00015	0.000022	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	⑬	排気口 東No.6-2 (P0459)	蒸留設備ﾍﾞﾝﾄｶﾞｽB	PCB	mg/m^{3}N	0.000030	0.000015	0.000021	－	0.000012	0.0000080	0.1	0.01
				ダイオキシン類	ng-TEQ/m^{3}N	0.00057	0.000022	0.000050	－	0.000025	0.000015	－	0.1
				塩化水素	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	－	<0.1	<0.1	－	0.61
				ベンゼン	mg/m^{3}N	<0.05	<0.05	<0.05	－	<0.05	<0.05	－	0.35
	－	ボイラー 排気口 東No.3		窒素酸化物	ppm	36	35	37	－	41	43	150	60
				ばいじん	g/m^{3}N	<0.002	<0.002	<0.002	－	<0.002	<0.002	0.05	Trace

（2）周辺環境モニタリング

令和６年度春期から令和６年度秋期にかけて事業所敷地内及び事業所周辺の２地点において、ＰＣＢ、ダイオキシン類、ベンゼン及び臭気の現況調査を実施した結果は、**（表－９～12）**のとおり、いずれも環境基準値等を下回っていました。

1）採取期間

①大気環境調査

令和６年度：　春期：令和６年　５月　15 日　～　５月　22 日
　　夏期：　〃　　７月　16 日　～　７月　23 日
　　秋期：　〃　　10 月　１日　～　10 月　８日
　　冬期：令和７年　１月　15 日　～　１月　22 日　（分析中）

②臭気測定

令和６年 10 月 30 日

2）測定結果

表－９　令和6年度実施の周辺環境モニタリング結果

実施時期	項　目	単　位	事業所敷地内	事業所周辺*1	環境基準値等*2
令和6年度 春期 (R6.5.15～R6.5.22)	PCB	mg/m^3 【ng/m^3】	0.00000026 【0.26】	0.00000025 【0.25】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m^3	0.011	0.011	0.6
	ベンゼン	mg/m^3	0.00075	0.00071	0.003
令和6年度 夏期 (R6.7.16～R6.7.23)	PCB	mg/m^3 【ng/m^3】	0.00000029 【0.29】	0.00000020 【0.20】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m^3	0.0077	0.0081	0.6
	ベンゼン	mg/m^3	0.00061	0.00055	0.003
令和6年度 秋期 (R6.10.1～R6.10.8)	PCB	mg/m^3 【ng/m^3】	0.00000038 【0.38】	0.00000027 【0.27】	0.0005 【500】
	ダイオキシン類	pg-TEQ/m^3	0.014	0.013	0.6
	ベンゼン	mg/m^3	0.00031	0.00022	0.003

*1：事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内

*2：ＰＣＢについては環境庁大気保全局通知（昭和 47 年環大企 141 号）に基づく暫定濃度、ダイオキシン類及びベンゼンは環境基準値

表－10　経年変化（PCB）

（単位：ng/m³）

場所＼年度	H17*1 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6*2 2024
事業所敷地内	0.80	0.70	0.78	0.78	1.20	0.64	0.78	0.44	0.69	0.47	0.39	0.39	0.38	0.42	0.46	0.44	0.36	0.31	0.35	0.31
事業所周辺*3	0.55	0.56	0.62	0.48	0.73	0.54	0.55	0.28	0.42	0.36	0.36	0.31	0.30	0.33	0.33	0.38	0.29	0.29	0.30	0.24

＊1：平成17年度は、施設建設段階
＊2：令和６年度は、春期、夏期、秋期の平均値
＊3：事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内
注：環境庁大気保全局長通達（昭和47年環大企141号）に基づく暫定濃度：500ng/m³

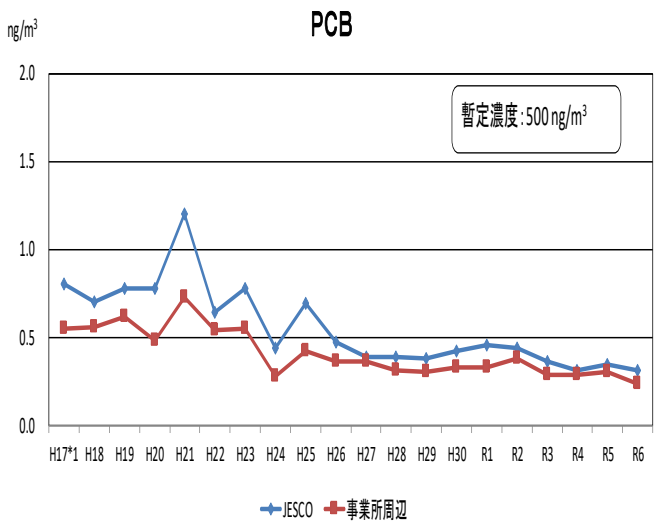
表－11　経年変化（ダイオキシン類）

（単位：pg-TEQ/m³）

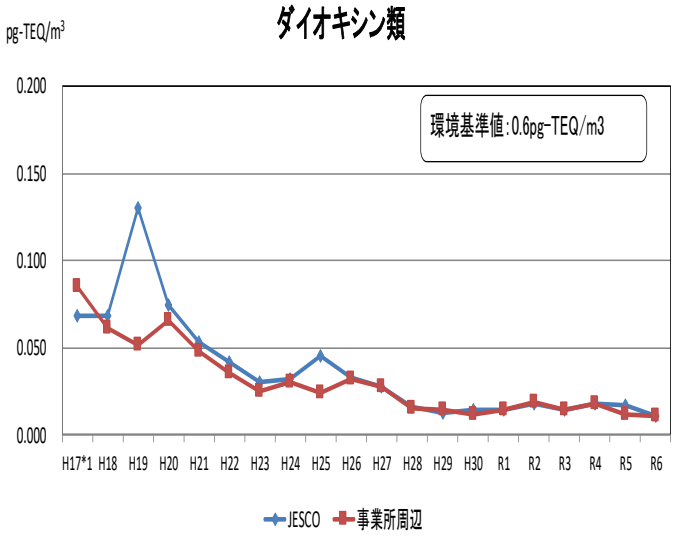
場所＼年度	H17*1 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6*2 2024
事業所敷地内	0.068	0.068	0.130	0.075	0.053	0.042	0.030	0.032	0.045	0.033	0.028	0.016	0.013	0.014	0.014	0.018	0.014	0.018	0.017	0.011
事業所周辺*3	0.085	0.061	0.052	0.066	0.048	0.036	0.025	0.030	0.024	0.032	0.028	0.015	0.014	0.012	0.014	0.019	0.014	0.018	0.012	0.011

＊1：平成17年度は、施設建設段階
＊2：令和６年度は、春期、夏期、秋期の平均値
＊3：事業所南側に位置する大阪ガス舞洲営業技術センター敷地内
注：環境基準値：0.6pg-TEQ/m³

図－1　経年変化（PCB、ダイオキシン類）



＊1：平成17年度は、施設建設段階
＊2：令和６年度は、春期、夏期、秋期の平均値



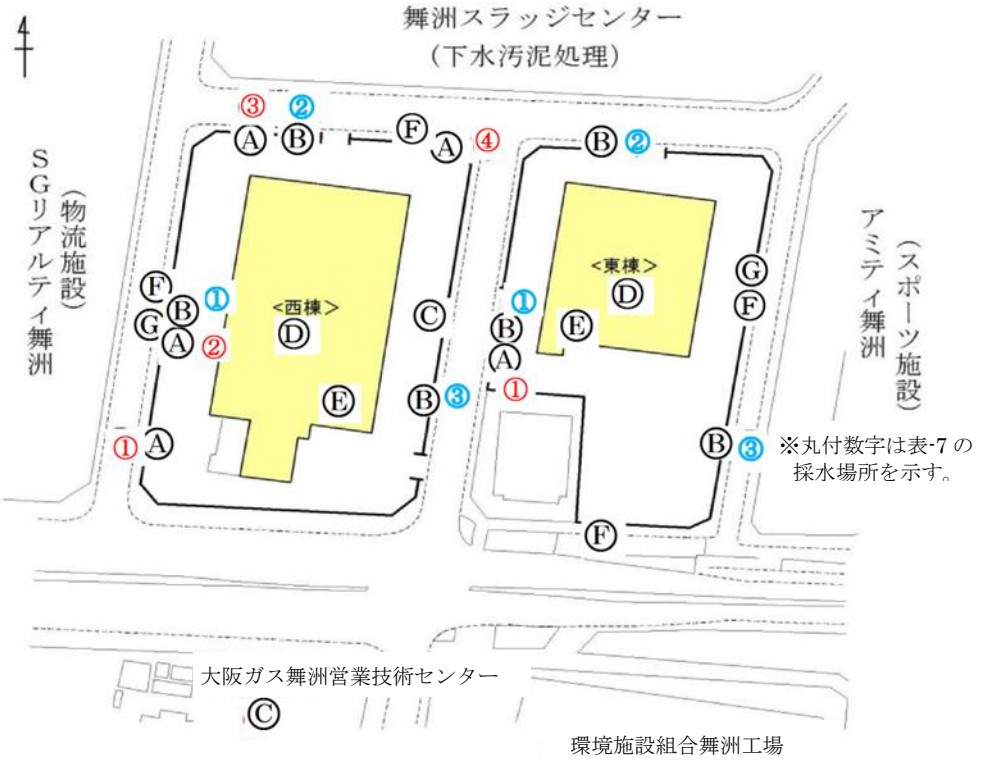
＊1：平成17年度は、施設建設段階
＊2：令和６年度は、春期、夏期、秋期の平均値

表－12　臭気測定結果

（令和６年10月30日実施）

項目	単位	西棟敷地内	東棟敷地内	維持管理値＊1
臭気指数*2	—	＜１０	＜１０	10
アセトアルデヒド	ppm	定量下限値未満	定量下限値未満	0.05
トルエン	ppm	定量下限値未満	定量下限値未満	10

*1 大阪市環境事業局長通知（H18.8.31付）
*2 三点比較式臭袋法（公定法）により実施し、測定下限値は臭気指数10



排出水のモニタリング

用役排水（冷却水等） → 排水処理設備（中和） → Ⓐ → 公共下水道
生活排水 → Ⓐ → 公共下水道
雨水 → 油水分離 → Ⓑ → 公共雨水管

周辺環境モニタリング

大気	Ⓒ	4回／年	敷地内 1箇所（西棟東側）、敷地外 1箇所（敷地南約300m）

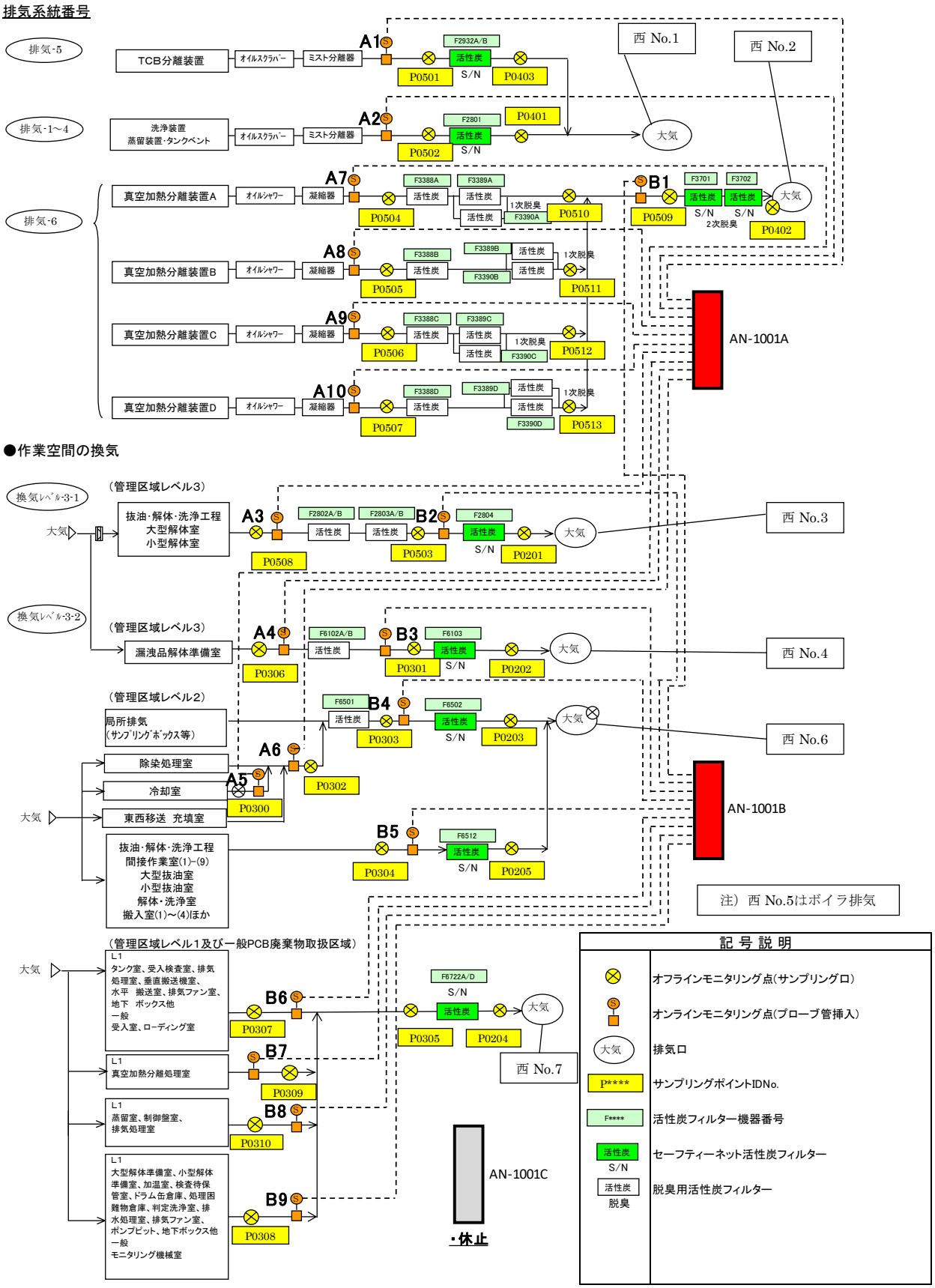
排出モニタリング

換排気	Ⓓ	2回／年	西棟 No.1−1 測定項目4項目 No.1−2 測定項目2項目 No.2 測定項目3項目 No.3 No.4 No.6−1 No.6−2 No.7 測定項目2項目 東棟 No.1−1 No.1−2 No.1−3 No.1−4 測定項目2項目 No.2−1 No.2−2 No.2−3 No.2−4 測定項目4項目 No.4−1 No.4−2 No.5 測定項目2項目 No.6−1 No.6−2 測定項目4項目
ボイラー	Ⓔ	2回／年 （1回／年）	西棟 No.5 東棟 No.3 測定項目2項目
騒音・振動	Ⓕ	1回／年	東西南北 4箇所
悪臭	Ⓖ	1回／年	排出口（No.2） 測定項目3項目 及び敷地境界2箇所（風上風下） 測定項目3項目

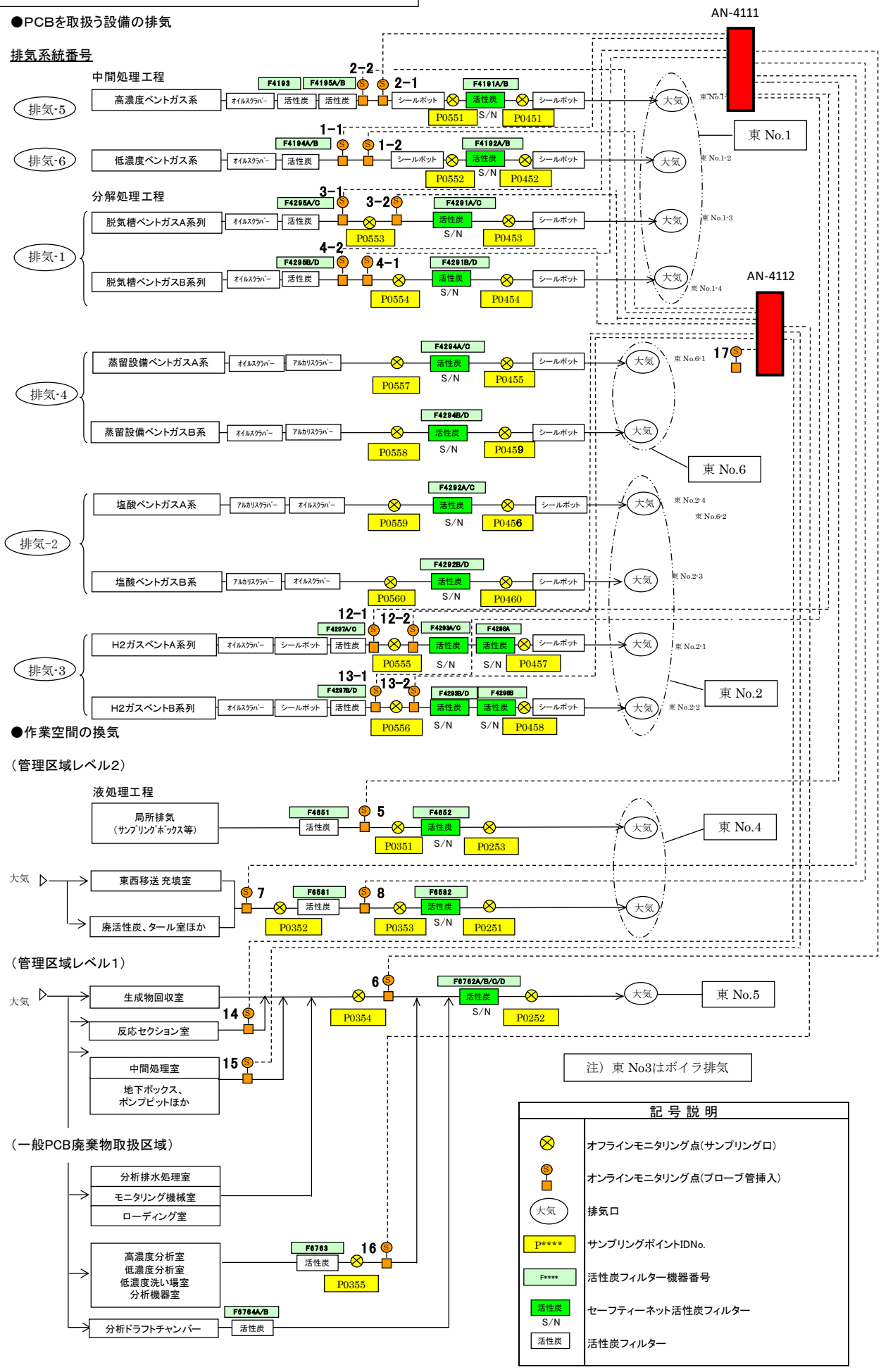
西棟オンラインモニタリング概略系統図

●PCBを取扱う設備の排気

排気系統番号



東棟オンラインモニタリング概略系統図



4. 作業環境測定結果

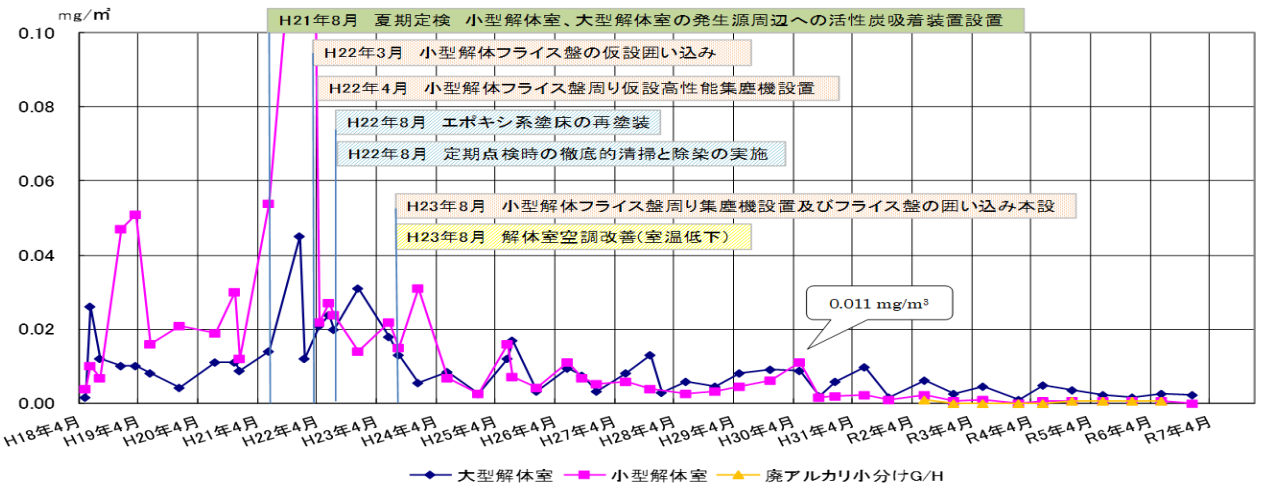
（１）ＰＣＢ濃度

作業従事者のＰＣＢ曝露防止のため、労働安全衛生法特定化学物質障害予防規則(法定測定)に基づき、大型解体室と小型解体室及び処理困難物倉庫（廃アルカリ小分け G/H:ブース）の作業環境中のＰＣＢ濃度の測定を毎年度２回実施（状況に応じて追加測定を実施）しています。

また、同等の管理が必要として受入検査室、抜油室、ＶＴＲ処理室等を自主測定として同様に測定を実施しています。その測定結果は**(表－13)(P15)**に示しています。大型解体室と小型解体室の測定結果の経年変化を**(図－2)**に示しています。平成 22 年以降は僅かに低減傾向にありましたが、平成 30 年５月の測定で小型解体室で許容濃度 0.01 mg/m³を超過しましたので、定期検査時に清掃と除染を行い許容濃度以下となりました。その後の測定でも許容濃度以下を確認しています。

運転廃棄物として発生する廃アルカリを小分けして、ドラム缶の充填量を少なくして処理を行うための廃アルカリ小分け G/H を処理困難物倉庫内に設置し、その測定を令和２年度から実施しています。

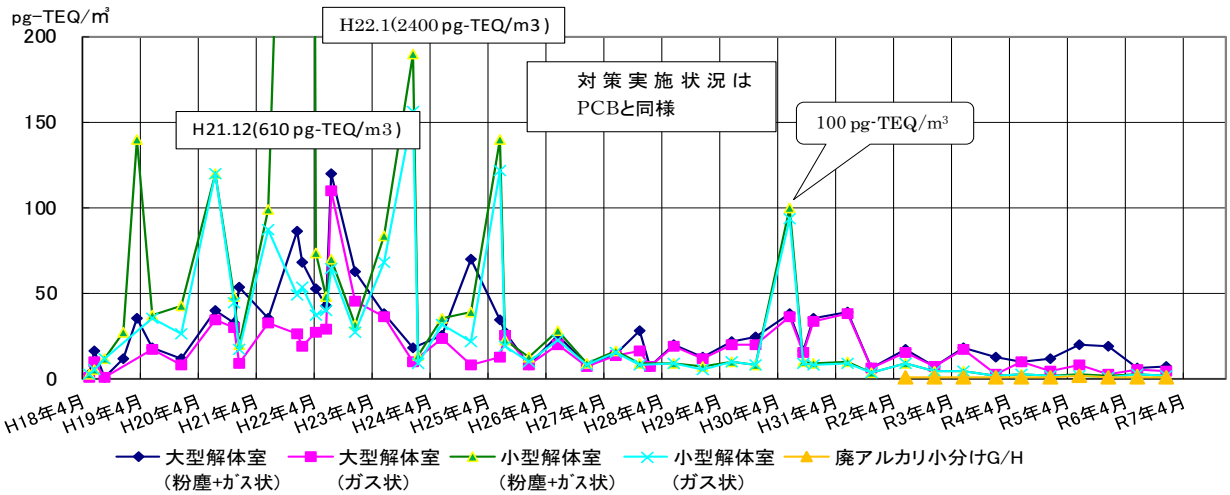
図－2　作業環境中PCB濃度の経年変化及びPCB濃度低減対策実施状況



（２）ダイオキシン類濃度

図－3、表－13(P15)に示すとおり、平成 30 年５月の測定で小型解体室のダイオキシン類濃度が 100pg-TEQ/m³と上昇しましたが、定期検査時に清掃と除染を行い、その後令和６年 12 月まで上昇前と同程度を維持しています。大型解体室は令和元年定期検査時に徹底的に清掃と除染を行い低下し、その後、令和元年度の上昇前と同程度を維持しています。

図－3　作業環境中ダイオキシン類濃度の経年変化



（3）作業環境の改善対策

作業環境中のＰＣＢ及びダイオキシン類濃度が高いエリアにおける作業環境の改善対策について、比較的濃度の高いエリアについては、大阪ＰＣＢ廃棄物処理事業監視部会でのご助言等を踏まえて順次対策を実施してきたところです。

今後は、設備の解体撤去工事に向けた配管・タンク類の液抜きや洗浄などの作業が中心になることから、解体撤去マニュアルに従い的確な作業を実施し、作業従事者の安全衛生を確保してまいります。

表－13　作業環境測定結果

○　測定値の赤字は管理濃度等の超過を表す。

棟名	階	測定対象室名	管理区域レベル	R6.12実施　(2024.12)			R6.6実施　(2024.6)			R5.12実施　(2023.12)			R5.6実施　(2023.6)			R4.12実施　(2022　12)			R4.6実施　(2022 6)			R4.1実施　(2022 1)		
				PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)	PCB　(mg/m³)		DXNs (pg-TEQ/m³)
				A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>	A測定*1	B測定	粉じん+ガス<粉じん>
		管理濃度等		0.01		2.5	0.01		2.5	0.01		2.5	0.01		2.5	0.01		2.5	0.01		2.5	0.01		2.5
西棟	1F	受入検査室	1	—	<0.0005 <0.0005	0.066	—	<0.0005 <0.0005	0.23	—	<0.0005 <0.0005	0.11	—	<0.0005 <0.0005	0.25	—	<0.0005 <0.0005	0.17	—	<0.0005 <0.0005	0.57	—	<0.0005 <0.0005	0.19
	1F	除染処理室	2	—	<0.0005	0.58	—	<0.0005	0.22	—	<0.0005	0.14	—	<0.0005	0.23	—	<0.0005	0.083	—	<0.0005	0.16	—	<0.0005	0.19
	1F	漏洩品解体準備室	3	—	<0.0005	1.3	—	<0.0005	0.61	—	<0.0005	1.7	—	<0.0005	0.50	—	<0.0005	0.30	—	0.0008	0.94	—	<0.0005	0.62
	1F	大型抜油室	2	—	<0.0005	0.66	—	<0.0005	1.4	—	<0.0005	0.70	—	0.0008	2.3	—	<0.0005	1.0	—	0.0006	2.8	—	<0.0005	0.79
	1F	小型抜油室(1)	2	—	<0.0005	0.50	—	<0.0005	2.0	—	<0.0005	0.57	—	0.0008	1.3	—	<0.0005	0.60	—	0.0008	2.0	—	<0.0005	0.63
	1F	小型抜油室(2)	2	—	<0.0005	2.0	—	0.0008	2.3	—	0.0009	1.6	—	0.0014	3.9	—	0.0006	1.9	—	0.0009	3.5	—	<0.0005	2.3
	1F	大型解体室	3	0.0016	0.0013 0.0022	7.0 <2.6>	0.0016	0.0012 0.0027	6.4 <1.4>	0.0018	0.0015 0.0015	19 <2.7>	0.0019	0.0021 0.0022	20 <12>	0.0029	0.0035 0.0023	11 <6.8>	0.0030	0.0043 0.0048	10 <0.65>	0.0008	<0.0005 0.0010	12 <9.6>
	1F	小型解体室	3	0.0005	<0.0005 <0.0005	1.2 <0.20>	0.0006	0.0007 0.0007	2.7 <0.17>	0.0007	<0.0005 0.0005	1.7 <0.44>	0.0005	<0.0005 0.0005	2.2 <0.40>	0.0006	0.0006 0.0006	1.6 <0.51>	0.0007	0.0006 0.0006	2.5 <0.081>	0.0005	<0.0005 <0.0005	1.3 <0.16>
	1F	解体前洗浄室	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—
	1F	間接作業室(4)	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—
	1F	解体室外周通路	2	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—
	1F	充填室(西)	2	—	<0.0005	0.14	—	<0.0005	0.39	—	<0.0005	0.24	—	<0.0005	0.82	—	<0.0005	0.49	—	<0.0005	0.44	—	<0.0005	0.14
	1F	処理困難物倉庫& 廃アルカリ小分けG/H	1	—	<0.0005 <0.0005	0.22 0.78	—	<0.0005 0.0005	0.15 0.51	—	<0.0005 0.0005	0.064 0.40	—	<0.0005 0.0005	0.18 1.1	—	<0.0005 0.0005	0.21 0.47	—	<0.0005 <0.0005	0.21 0.50	—	<0.0005 <0.0005	0.13 0.21
	1F	タンク室	1	—	<0.0005	0.92	—	<0.0005	1.5	—	0.0005	0.46	—	0.0008	2.1	—	0.0006	0.86	—	<0.0005	1.2	—	<0.0005	0.55
	1F 3F	蒸留室	1	—	<0.0005 <0.0005	0.21 0.22	—	<0.0005 <0.0005	2.8 2.5	—	<0.0005 <0.0005	0.93 1.1	—	<0.0005 <0.0005	5.7 4.8	—	<0.0005 <0.0005	2.3 2.2	—	<0.0005 <0.0005	7.3 7.4	—	<0.0005 <0.0005	0.27 0.34
	3F	VTR処理室(1)	1	—	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.075 — —	—	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.19 — —	—	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.13 — —	—	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.32 — —	—	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.44 — —	— — —	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.43 — —	— — —	<0.0005 <0.0005 <0.0005	0.11 — —
	3F	VTR処理室(2)	1	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	<0.0005	—
	3F	VTR処理室(3)	1	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —
東棟	1F	充填室(東)	2	—	<0.0005	0.46	—	<0.0005	1.6	—	<0.0005	0.95	—	<0.0005	3.1	—	<0.0005	0.86	—	<0.0005	2.0	—	<0.0005	0.30
	1F	反応セクション室	1	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —	— —	<0.0005 <0.0005	— —
	1F ～ 3F	中間処理室	1	—	全測定点 <0.0005	1.1 ～ 2.1	—	全測定点 <0.0005	0.87 ～ 1.7	—	全測定点 <0.0005	1.6 ～ 4.6	—	全測定点 <0.0005	5.0 ～ 11	—	全測定点 <0.0005	1.7 ～ 3.9	—	全測定点 <0.0005	3.2 ～ 7.2	—	全測定点 <0.0005	0.82 ～ 1.8

※　毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
*1:　幾何平均値を記載
廃アルカリ小分けG/H: 廃アルカリ小分けグリーンハウス(ブース)

５. 作業従事者の健康管理

大阪ＰＣＢ処理事業所においては、作業従事者の健康管理として、労働安全衛生法に基づく特殊健康診断の実施に加え、血中ＰＣＢ及びダイオキシン類濃度の測定を定期的に行って管理しています。

ＰＣＢ廃棄物を取り扱うエリアで作業する作業従事者を対象に採血し、毎年６月を目途に血中ＰＣＢを測定しており、令和６年６月までの状況については、血中ＰＣＢ濃度が、全作業従事者において健康管理の目安となる生物学的許容値である 25ng/g-血液を下回っていました。

平成 30 年度から大型解体室や小型解体室で作業する解体班全員と他の班において血中ＰＣＢ濃度が６月の測定において２ng/g-血液以上であった者を対象に 12 月に採血し測定しており、令和６年 12 月採血分は現在分析中です。

血脂中ダイオキシン類濃度については、平成 30 年度から 12 月に採血・測定を実施しています。環境省の調査結果（ダイオキシン類関係作業に従事していない者を対象とした調査）と同等又はそれ以下をＪＥＳＣＯの当面の健康管理の目安としており、令和５年 12 月の測定結果では、最大値が 29pg-TEQ/g-lipid の作業従事者がいましたが、平成 23～28 年度の環境省調査結果（0.39～56pg-TEQ/g-lipid）の範囲内であり、令和６年 12 月採血分は現在分析中です。

また、作業従事者に対して血中濃度結果を通知する際、吸収缶の交換、保護マスクの装着時の注意点、保護具の脱着、保管方法、入出時間等の作業状況や安全衛生上の注意事項の遵守状況などをヒアリングし、必要に応じて指導しています。

今後も測定を継続し、健康管理を進めてまいります。

6. ヒヤリハット・キガカリ活動の取組み状況

ヒヤリハット・キガカリ活動は、事業所の安全レベル向上と危険のない職場づくりのために、積極的に取り組んでいます。操業時からの提出件数は**(表－14)**のとおりです。作業員から提出された案件は、タスクチームで１件毎に内容を確認し、改善が望ましいと判断した案件については確実に改善を進めています。これらの実施状況については、毎月開催されるＪＥＳＣＯ／運転会社の安全衛生協議会で報告されています。

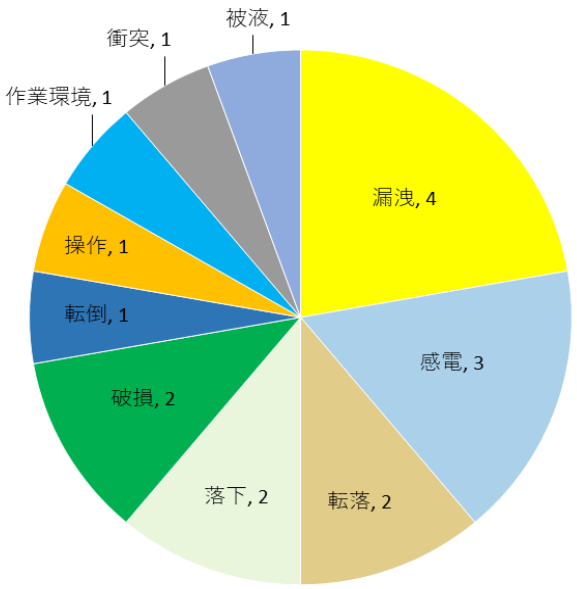
また、令和６年４月から令和７年１月の間に提出されたヒヤリハット・キガカリ案件の項目別分類は**(図－4)**に示すとおりです。

表－14　ヒヤリハット・キガカリの提出件数

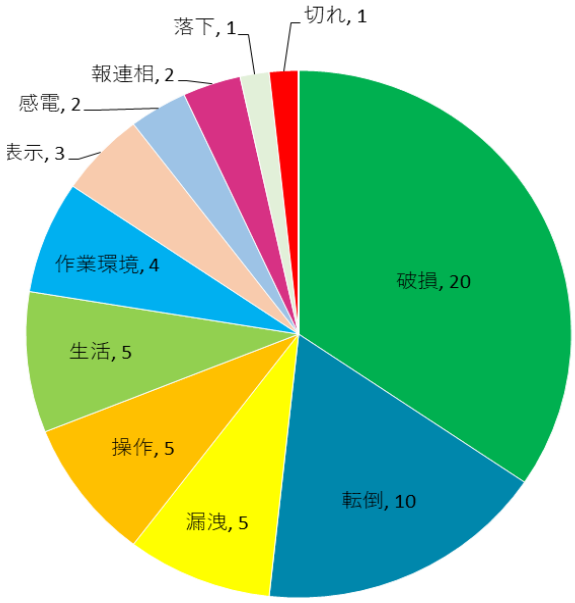
年　度	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R１ 2019	R２ 2020	R３ 2021	R４ 2022	R５ 2023	R６* 2024
ヒヤリハット	78	162	21	66	99	75	78	40	98	98	98	74	77	55	30	41	23	19	18
キガカリ	41	357	168	293	247	205	306	171	236	236	274	244	262	268	200	196	139	111	58

＊R7年1月末

図－4　ヒヤリハット・キガカリ項目別分類件数（令和6年4月～令和7年1月）



ヒヤリハット　18 件



キガカリ　58 件

なお、労働災害の未然防止策をより有効に進めるため、ＪＥＳＣＯ全事業所においてヒヤリハット情報等のリスク評価を行いリスクが高いものについては、インシデントと位置付けて本社に報告し各事業所に水平展開するとともにリスク低減策を講じています。

リスク評価は、リスクの見積もり**(表－15)**を基に評価しており、**(表－16)**に大阪ＰＣＢ処理事業所におけるヒヤリハット情報等のリスク評価結果を示します。このリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントとしており、令和６年度においては、ヒヤリハット情報によるものではありませんでしたが、11 月 13 日に「配管の払出用コンテナへの詰替え作業時に指を負傷」が発生し、リスク評価の結果リスクレベルⅢとし、インシデントとしました。これに関しましては**「８．トラブル等の報告」**の章で詳細を説明します。

表－15　リスクの見積もり

【労働災害に係るリスク評価】　　対象：ヒヤリハット情報
ヒヤリハットとは、作業中にヒヤリ又はハッとするような、一歩間違えばトラブルに結びつく事象
この事象のリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントと位置づけ

人への危害	点数
死亡・重傷	10
休業災害	6
不休災害	3
微小	1

＋

可能性	点数
確実	6
大	4
有	2
無	1

＝

ﾘｽｸﾚﾍﾞﾙ	ﾘｽｸﾎﾟｲﾝﾄ	ﾘｽｸの程度	指定
Ⅳ	12~16	安全衛生上重大な問題有り	インシデント
Ⅲ	7~11	安全衛生上問題有り	
Ⅱ	5~6	安全衛生上多少問題有り	
Ⅰ	~4	安全衛生上問題なし	

表－16　ヒヤリハット情報等のリスク評価（令和6年4月～令和7年1月）

月 / リスクレベル	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	1月	合計
Ⅳ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
Ⅱ	2	0	1	0	2	2	2	1	1	3	14
Ⅰ	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	4
合計	2	1	2	0	2	2	3	2	2	3	19

７．PCB廃棄物処理施設設備改造・運用変更

環境安全評価委員会開催状況

前回の監視部会（令和６年 12 月）から令和７年２月末までに、弊社「ＰＣＢ廃棄物処理施設設備改造・運用変更管理規程」に基づき開催された環境安全評価（ＳＡ）委員会での案件はありませんでした。

8. トラブル等の報告

（１） 配管の払出用コンテナへの詰替え作業時に指を負傷（インシデント）

1) 概　要

令和６年 11 月 13 日、午後２時 40 分頃、西棟３階 切断・粉砕室でＶＴＲ（真空加熱分離）処理済みの配管（長さ 91cm、直径 21cm、重量 37kg）を運転会社作業員がＶＴＲケースから払出用コンテナへの詰替え作業において、配管をコンテナ内に吊り降ろした後、位置を直そうと手を入れたところ当該配管が動いて、配管とコンテナの壁で右手中指を挟みました。

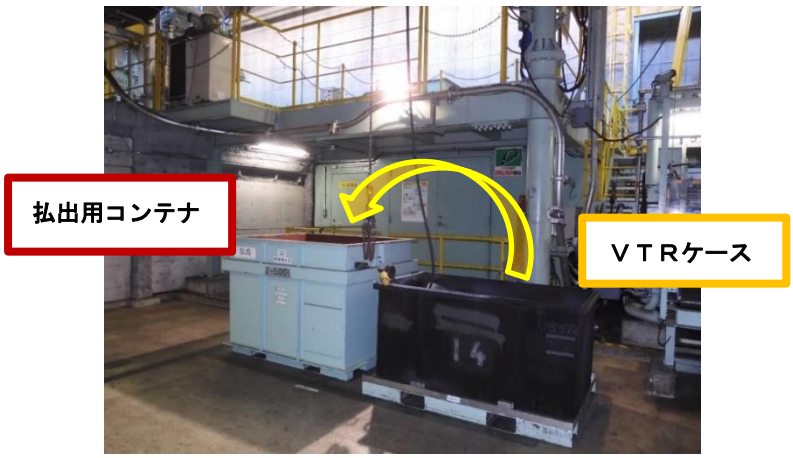
装着していた革手袋及びインナー手袋を外したところ、中指に痛みがあり第１関節から出血がありました。救急病院を受診した結果、右手中指の先端骨折が判明、また第１関節の裂傷（縫合なし）と診断されました。

2) 原因等

・配管から移動用クレーンのチェーンを外した後、コンテナ内に手を入れたこと。
・作業開始前のＫＹ（危険予知）では、配管の取出し順、安全な玉掛け方法について確認したが、チェーン取り外し後の作業について確認していなかったこと。
・払出コンテナ内での位置調整の際、異形配管で、かつ、重量的に手鉤では対応できなかったため、つい手を出してしまったこと。

3) 対　策

・「手を入れるな」の表示を行い作業時に常に見えるようにして、払出コンテナ内に手を絶対に入れないことを徹底します。
・ＶＴＲケースからの取出し作業では、取出し順や玉掛け方法に加えて、コンテナ内での位置調整までを対象にＫＹを行うことを徹底します。
・指先を挟む可能性のある作業時は、金属製の指先保護パーツを内蔵した手袋を使用します。



払出用コンテナ内部

VTR ケース内部

９. その他説明事項

（１）インフルエンザ・新型コロナウイルスなどの感染症拡大にともなう当事業所での対応状況

大阪ＰＣＢ処理事業所においては、アルコールスプレーの設置、手指衛生、うがい及び咳エチケット（マスクの着用を含む）等による予防処置、Web 会議を積極的に取り入れるなどの対策を継続しています。

（２）視察・見学状況

平成 18 年 10 月に見学受入を開始して以降、令和７年２月末現在で延べ 11,720 人が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（ＰＣＢ廃棄物保管事業者を含む。）、行政関係、環境関係団体等の方々です。

なお、令和２年３月中旬から令和３年 10 月まで新型コロナウイルス感染症対策として見学の受入を中止しましたが、令和３年 11 月からは視察・見学を再開しています。

表－17　視察･見学者数（人）

2025.2末

年　月	総 数	企業関係	環境関係団体等	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海 外
平成18年度	2,129	793	790	113	282	62	55	34
平成19年度	3,333	1,511	1,018	527	148	44	40	45
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30
平成21年度	650	237	183	19	79	64	51	17
平成22年度	624	152	212	34	87	101	26	12
平成23年度	482	231	51	2	128	23	36	11
平成24年度	501	176	149	1	75	60	31	9
平成25年度	465	189	80	1	175	6	14	0
平成26年度	518	158	141	21	111	81	0	6
平成27年度	280	100	77	1	60	34	1	7
平成28年度	412	85	191	3	76	34	0	23
平成29年度	474	91	257	0	39	57	7	23
平成30年度	291	34	85	29	116	10	2	15
令和１年度	309	60	122	0	51	16	5	55
令和２年度	10	0	0	0	10	0	0	0
令和３年度	52	0	0	5	47	0	0	0
令和４年度	59	2	0	0	38	17	2	0
令和５年度	14	4	0	3	7	0	0	0
令和６年4月～令和7年2月末	17	0	7	0	10	0	0	0
合　計	11,720	4,139	3,793	772	1,707	661	361	287

環境関係団体等：環境関係団体や議会等の各種団体

（３） 緊急時対応訓練実施状況

令和６年度は「漏洩対応」をテーマとして、グループごとに個別事象を設定して取り組んでいます。今後も毎月１回の訓練を計画しています。**（表－18）**

表－18　緊急時対応訓練実績

開催予定	訓練内容	実施日
令和６年　４月開催	漏洩対応訓練（中制グループ）	4月22日
５月開催	消防訓練（全員：消火器・担架取扱）	5月29日
６月開催	漏洩対応訓練（液処理グループ）	8月2日＊
７月開催	漏洩対応訓練（ＶＴＲグループ）	7月25日
８月開催	漏洩対応訓練（検査解体グループ）	8月29日
９月開催	漏洩対応訓練（分析グループ）	9月25日
１０月開催	震災訓練（全員）	10月23日
１１月開催	消防訓練（液処理グループ）	11月20日
１２月開催	漏洩対応訓練（中制グループ）	12月19日
令和７年　１月開催	漏洩対応訓練（ＶＴＲグループ）	1月30日
２月開催	漏洩対応訓練（検査解体グループ）	2月21日

＊：開催月を変更した訓練

消防訓練　（令和６年 11 月 20 日）

（４） 安全教育実施状況

無事故無災害でＰＣＢ処理を進めるため、所員の健康・安全意識、知識の向上を図ることを目的に毎月安全教育を実施しています。**（表－19）**

テーマについては、熱中症対策、安全に対する心構え、地震への備え等、幅広くテーマを設けて実施しています。

表－19　安全教育実績

開催予定	教育内容	実施日
令和６年　４月開催	環境マネジメント教育	4月18日
５月開催	熱中症対策	5月23日
６月開催	こころの健康について	6月24日
７月開催	夏期定期点検工事	7月17日
８月開催	安全に対する心構えについて	8月22日
９月開催	地震のしくみについて	9月19日
１０月開催	感染症対策	10月16日
１１月開催	地震への備えについて	11月21日
１２月開催	犯罪防止について	12月18日
令和７年　１月開催	個人情報の保護について	1月22日
２月開催	生活習慣病の予防について	2月26日